



『阿賀に生きる』(撮影) / 『チョコラ!』
小林茂監督作品

風の波紋

山形国際
ドキュメンタリー映画祭2015
正式招待
日本映画撮影監督協会
第24回 JSC賞

撮影 松根広隆
現場録音 川上拓也
音響 菊池信之
編集・アシシエイトプロデューサー 秦岳志
編集協力 山崎剛一
音楽 II「めざめのとき」天野季子(作詞・作曲・歌)
プロデューサー II 矢田部吉彦(長倉徳生
後援 II「小林茂の仕事」O.T.スケ隊
助成 II 余文化庁文化芸術振興費補助金
製作 II カサマフィルム 配給 II 東風
2015年 / 99分 / DCP / カラー / 日本

えちごつまり
越後妻有の里山暮らし。



風がおしえてくれたこと。
いのちと暮らす、
いのちを食べる。

それは手づくりの世界でもあり、
この大地とともに暮らすプロフェッショナルな人びとの世界だ。
進歩ではなく、深められていくことを喜ぶ世界。
発展ではなく永遠の世界。技術ではなく技の世界。知識ではなく知恵の世界。
そしてこんな人間たちの営みを見守っている自然。
それはいまでは多くの入たちがあがれている世界だ。

内山節(哲学者)



ふつうの桜でも
綺麗に染まるんだけどね



桜如きの季節に、枝の折れた山桜を発見!

田んぼはね、
ハマるんですよー



使い方がわからないから農業は使わない

舞台は越後妻有の里山。この雪深い村に都会から移り住んだ木暮さん夫婦は、茅葺き屋根の古民家を修復し、見よう見まねで米を作って暮らしてきた。ゴリゴリと豆を挽いてコーヒーを淹れ、野山の恵みを食卓にならべる。草木染職人の松本さんは、山桜で染めた糸を夫婦並んで手織りする。色鮮やかな着物が仕立てあがるころ、娘さんが成人式を迎えた。

悠々自適、気ままな田舎暮らしに見えるけれど、ときに自然はきびしい。冬ともなれば雪がしんと降り続け、来る日も来る日も雪かきに追われる。ひとりでは生きられない。茅葺きや稲刈りも協働作業だ。木暮さんのまわりには不思議と個性ゆたかな仲間が集まり、ことあるごとに囲炉裏を囲んで宴がはじまる。歌と笑い、もちろんお酒もかかせない。そうやって、ここでは新しい私たちの「結」がゆるやかに息づいている。

ある春の朝、大きな地震がおきた。木暮さんの家も全壊したが、彼は再建を決意する――。

積雪が4メートルを超えるこの土地では「雪かき」を「雪掘り」と呼ぶ



すきな食べ物は、ごはん。



コシヒカリの里だからね



レーザーディスクのカラオケも健在

『阿賀に生きる』『阿賀の記憶』のスタッフたちが見つけた ドキュメンタリー映画の新たな地平

手間を惜しまず丹念に育てられた米や野菜が、私たちの日々の暮らしを彩るように、心をこめて作られた一本の映画が、人生のたいせつな糧となることがあります。『風の波紋』は、『阿賀に生きる』『阿賀の記憶』のスタッフたちが5年の歳月をかけて、じっくりと作りあげた映画です。ぜひ劇場のスクリーンでご堪能ください。

山羊はかわいいけれど、
ごちそうにもなる。
薬で変ったタタキは絶品



風の波紋

fb.com/kazenohamon.movie @kazenohamon www.kazenohamon.com